

モーツァルト室内管弦楽団 第187回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester Japan / 187.Regulärkonzert



2019年3月23日(土)午後2時■いずみホール

Samstag, 23. März, 2019, 14 Uhr●Izumi Hall Osaka

- 主催：NPO 法人モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.moz-kam.org>
- 協賛：いずみホール〔一般財団法人 住友生命福祉文化財団〕
- マネジメント：大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504

*2017年2月モーツァルト室内管弦楽団はNPO法人となりました。



モーツァルト室内管弦楽団 第187回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester/187. Regulärkonzert

2019年3月23日(土)午後2時●いずみホール

Samstag, 23. März, 2019, 14 Uhr●Izumi Hall Osaka

モーツァルト

Wolfgang Amadeus Mozart

(1756-1791)

交響曲 第38番 ニ長調 K.504 《プラハ》

Sinfonie Nr.38 D-dur KV504 „Prager-Sinfonie“

I. Adagio – Allegro

II. Andante

III. Presto

ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 K.467*

Klavier-Konzert Nr.21 C-dur KV467*

I. Allegro maestoso

II. Andante

III. Allegro vivace assai

* * *

交響曲 第41番 ハ長調 K.551 《ジュピター》

Sinfonie Nr.41 C-dur KV551 „Jupiter-Sinfonie“

I. Allegro vivace

II. Andante cantabile

III. Menuetto : Allegretto

IV. Molto Allegro

ピアノ独奏：池田 洋子* / Klavier Solo: Yoko Ikeda*

管弦楽：モーツァルト室内管弦楽団 / Orchester: Mozart-Kammerorchester Japan

指揮：門 良一 / Dirigent: Ryoichi Kado

■交響曲 第38番 ニ長調 K.504 《プラハ》

モーツァルトはあらゆるジャンルに膨大な数の作品を残しているが、交響曲も疑わしい作品や他人の作とわかかっていてもモーツァルトの名が冠せられた作品を含めると全部で74曲が勘定される(モーツァルト室内管弦楽団はそれらをすべて演奏した日本唯一の団体である)。だがそのうちで今日よく演奏されるのは第25番ト短調K.183、第29番イ長調K.201と第31番ニ長調K.297《パリ》以降の「後期交響曲」であろう。「後期交響曲」(20歳代の作品を含む作品群を後期というのは違和感があるが)のうち第31番《パリ》はメヌエット楽章がなく3楽章である。その次は第32番K.318で、3つの部分からなるが続けて演奏されるので明らかに「序曲」である。第33番K.319は後から追加されたメヌエットがあるので4楽章になっている。第34番にはメヌエットがなく序曲風である。第35番K.385《ハフナー》はもともと「セレナーデ」(宴会用の娯楽音楽)として作曲されたものを交響曲に転用したものである。第36番K.425《リンツ》は4楽章ある。第37番というのはミハエル・ハイドン(ヨーゼフ・ハイドンの弟でザルツブルクに居た)の交響曲にモーツァルトが第1楽章の序奏を付けただけの曲が間違っただけで勘定されたものである。残りは今日の演奏会で取り上げられる第38番K.504《プラハ》と第39、40、41番のいわゆる〈3大交響曲〉だが、このうち《プラハ》だけにメヌエットがない。メヌエット楽章が定着した4楽章からなる交響曲の形式を確立したのはハイドンであるが、モーツァルトの「後期交響曲」でそのハイドン的な意味での交響曲は、第33番、第36番《リンツ》、それに〈3大交響曲〉の5曲だけということになる。

モーツァルト研究者として名高いアルフレート・アインシュタイン(1880-1952、相対性原理で有名な物理学者アルベルト・アインシュタインの親戚とする説があるが確証はない)は、《プラハ交響曲》を高く評価しており〈3大交響曲〉と一緒にして〈4大交響曲〉と呼んでいるが、作品の質の高さにおいてはその通りとしても《プラハ》と〈3大交響曲〉とは性格が全く違っている。第1楽章に序奏があるが、これが異常に長く36小節もある(他の序奏のある交響曲では《リンツ》が19小節、《第39番》が25小節)。この序奏は変化に富んでおり、非常に劇的でオペラを思わせるものがある。曲全体は明るいところもあるが、非常に神経質で病的なところも多い。交響曲に「神経質な」とか「病的な」という表現はふさわしくないと思うが、この交響曲はモーツァルトの心象風景をある意味忠実に反映していると感じていいのではないかと思う。「モーツァルトの光と影」と言われるが、その「影」の部分が多い作品である。その意味でメヌエットがないのは当然と言えよう。

■ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 K.467

ピアノ協奏曲の様式を確立したのはモーツァルトであり、実に23曲もの作品を残しているそのどれもが名曲である。この協奏曲はピアノ協奏曲の年と言える1784年(この年に第14~19番の6曲が作曲されている)の翌年1785年、モーツァルト29歳の時に作曲された。前作第20番ニ短調K.466の1ヶ月後である。暗い情熱に富んだ前作とは打って変わって明るく透明である。このような短期間に極めて対照的な作品を生み出すのは正に天才の所業と言えよう。第1楽章の堂々としながら端正な趣きは非常にシンフォニックで、「交響曲的ピアノ協奏曲」の頂点である第25番ハ長調K.503の前駆とっていいだろう。第2楽章は特に美しく、モーツァルトが現代のポップスか映画音楽の作曲家かと思まごうようなロマンティズムと通俗性にあふれた出来である。現代の映画作家が見逃すはずがない。

■交響曲 第41番 ハ長調 K.551 《ジュピター》

この曲を含むいわゆる〈3大交響曲〉は、この欄で何度か書いているが、ハイドンの〈パリ交響曲〉(第82~87番の6曲、1785~6年の作曲)の最初の3曲(第82番ハ長調、第83番ト短調、第84番変ホ長調)をモデルとしている。3曲の調性の組み合わせが全く同じであるのでそのように結論付けられる。モーツァルトはハイドンが遠くパリから注文を受けて交響曲をセットで書いたことに刺激を受けて、自分も交響曲をセットで書こうと思ったに違いない。モーツァルトのこのような意向は前作の《プラハ交響曲》の反動であるということは大いに考えられる。《プラハ》ではあまりに私的な音楽を書きすぎた、自己の心象風景に忠実でありすぎた、と思ったのではなかろうか。そんな時にハイドンがもっと外に向かって開かれた、公正なありかたを見せてくれたのである。《プラハ》は確かにモーツァルトにしか書けないユニークな交響曲であるが、交響曲としてはいささか偏っている。《ジュピター交響曲》におけるハイドンの影響については、機会があればハイドンの交響曲第82番の第1楽章を聴いてもらいたい(2011年の3月に開催した第140回定期演奏会で比較演奏をやっているが)。《ジュピター》とよく似た曲想をお聴きになれるだろう。

それにしてもこの《ジュピター交響曲》はすばらしい。モーツァルトはハイドンに倣って交響曲をさらに3曲ばかり書く気があったかもしれないが、そんなことはどうでもよい、《ジュピター》で十分である。この曲こそモーツァルトの最後の交響曲にふさわしい。これも何度か書いたが、終楽章の終結部においてはこの楽章を構成しているすべての動機が同時に鳴り響いて、まるで大宇宙の進行を表しているかのようなのである。この部分はその前の部分からの流れで何となく通過してしまうのはあまりにも惜しいので、私の演奏では特別な表現を試みたいと思っているのだが……。



池田洋子:ピアノ Yoko Ikeda, Klavier

第7回日本学生音楽コンクール高校の部全国第1位文部大臣賞受賞。

東くめ・照子・貞一、井口愛子の各氏に師事。

東京藝術大学在学中に渡仏し、パリ・エコール・ノルマル音楽院最高クラスに転入学。ジュル・ジャンティ、アルフレッド・コルトーの両氏に師事。日本人として最初のリサンス・ド・コンセール(演奏家資格)を得て卒業。

マリア・カナルス国際コンクール第2位(1位なし)、ヴィオッティ国際コンクール金賞等に輝き、パリをはじめ、国内外でのリサイタル活動を展開する。

また、大阪フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団の定期演奏会や、東京交響楽団、日本フィル、関西フィル、モーツァルト室内管弦楽団など日本の主要オーケストラと数多くの協演を重ねながら、室内楽活動にも意欲的に取り組んでいる。

1990年ザ・シンフォニーホールでの演奏歴30周年記念リサイタル以来、5年毎に記念リサイタルを開き、いずれも好評を博す。

一方1996年以降、ニューヨークで開催されるサミット・ミュージック・フェスティバルや、パリ近郊のムーラン・ダンデで開催されるマスタークラスに招かれ、演奏と指導を行う他、ポルト国際コンクールをはじめ、国内外のコンクールの審査員も務めている。

CDでは、「池田洋子ピアノリサイタル」、全音よりコルトー版によるツェルニー「25のエチュード」op. 748(CD付)が出版されている。

1999年川西市民文化賞、2000年兵庫県生活振興功労賞、2005年兵庫県文化賞、2015年瑞宝中綬章。

神戸女学院大学名誉教授。大阪音楽大学客員教授。

日本ピアノ教育連盟関西支部顧問。日本ショパン協会関西支部、川西市文化スポーツ振興財団理事。川西市民合唱団団長。川西音楽家協会会長。NPO法人関西音楽人クラブ副理事長。

《今後の演奏会の予定》

◆第188回定期演奏会◆

2019年5月18日(土)午後2時

天満教会

定期サロンコンサート

〈クライネ・モーツァルト〉第95回例会

〈教会音楽シリーズ〉第6回

—ヘンデル・オルガン協奏曲全曲演奏—

その5

ヘンデル:合奏協奏曲ト長調作品6-1

ヘンデル:オルガン協奏曲第14番イ長調

ヘンデル:オルガン協奏曲第6番変ロ長調

バッハ:ブランデンブルク協奏曲第4番ト長調

オルガン:際本 雅子

ブロックフレーテ:木戸麻衣子、財前奈緒子

ヴァイオリン:釋 伸司

指揮とお話:門 良一

◆第189回定期演奏会◆

2019年7月4日(木)午後7時

兵庫県立芸術文化センター小ホール

定期サロンコンサート

〈クライネ・モーツァルト〉第96回例会

モーツァルト:ディヴェルティメント K.138

サン=サーンス:組曲《動物の謝肉祭》

(原曲室内楽版)

ショパン:ピアノ協奏曲第1番(ピアノ6重奏版)

ピアノ:堀 茜、辰 玲奈、田中 紀子

ヴァイオリン:永ノ尾 文江、中川 敦史

ヴィオラ:佐份利 祐子

チェロ:日野 俊介

コントラバス:南出 信一

フルート:大江 浩志

クラリネット:高橋 博

打楽器:泉 純太郎

お話:門 良一

◆第190回定期演奏会◆

2019年10月5日(土)午後2時

いづみホール

〈フランス音楽特集〉

フォーレ:組曲《マスクとベルガマスク》序曲

サン=サーンス:ピアノ協奏曲第2番ト短調

イベール:フルート協奏曲

ビゼー:交響曲ハ長調

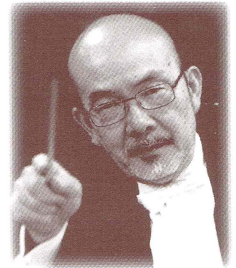
ピアノ:山田富士子

フルート:谷口 美香

指揮:門 良一

門 良一 ● 指揮 Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。1962年京都大学理学部物理学科卒業、67年同大学院終了。京都大学オーケストラには学部、大学院を通じて10年間在籍し、フルート奏者、指揮者を務め、同オーケストラの発展に多大な貢献をする。また、客演指揮者の故近衛秀麿、故朝比奈隆、故岩城宏之、故若杉 弘、故奥田道昭、秋山和慶各氏等のもとで副指揮者を務め、薫陶を受ける。70年モーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり、同楽団を日本有数のプロ室内オーケストラに育て上げた。モーツァルト、ハイドン等の古典派の作品を35人の室内オーケストラで優雅に繊細に演奏する独自のスタイルを確立している。企画力にも優れ、モーツァルトの「予約演奏会の再現」やオペラ《イドメネオ》の世界初ノーカット上演などの大きな企画を成功させている。また、世界的名手との協演も多く、ピアノのマリア=ジョアオ・ピリス、シプリアン・カツァリス、ヴァイオリンのライナー・キュッヒル、ホルンのペーター・ダム等との協演においてはソリストの絶大な信頼を得て大成功を収めている。近年は古典派だけでなく前期ロマン派やフランス音楽においても、企画、演奏両面で注目すべき成果を上げている。アマチュアの指導にも熱意を持ち、京都産業大学神山交響楽団の音楽監督・常任指揮者を創立時より務めている。モーツァルト研究者として知られ、1982～2011年NHK大阪文化センター、1992～2011年同神戸文化センターにおいて「モーツァルトを聴く」の講師を務める。京都産業大学名誉教授。



● NPO法人モーツァルト室内管弦楽団 Mozart-Kammerorchester Japan

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、48年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツァリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を開催。また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を、15年からは〈創立45周年シリーズ〉を開始している。2017年2月NPO法人となる。

《メンバー》	コンサートマスター	釋 伸司								
第1ヴァイオリン	釋 伸司	岩本 祐果	稲庭真理子	川端 直子	松本 紗希	原田 潤一				
	北村 奈美									
第2ヴァイオリン	田淵 彩華	都筑紗智子	田原口安代	徳田 雅子	幣 晴代	清水めぐみ				
ヴィオラ	佐份利祐子	森永 愛子	三上 哲	白木原有子						
チェロ	日野 俊介	境 綾子	柳瀬 史佳	三宅 香織						
コントラバス	石川 徹	土屋 綾子								
フルート	大江 浩志	菱田 弓子								
オーボエ	藤原 博司	長島 加奈								
ファゴット	倉永 晴美	羽生 尚代								
ホルン	佐藤 明美	西 陽子								
トランペット	大西 由起	森下 智稔								
ティンパニ	中村 優太									
インスペクター	中川 敦史									
ライブラリアン	本多 智子									

会長 谷口 安平 (京都大学名誉教授)
 監事 玉井 英二 (三井住友カード特別顧問)
 顧問 伊藤 郁太郎 (大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長) 梅原 猛 (国際日本文化研究センター顧問)
 (50音順)

《法人会員》(50音順)

荒川化学工業	三 孝 社	ダイキン工業	福 山 製 紙
関西電力	サントリーホールディングス	高 松 建 設	マ キ 工 業
きん で ん	新日鐵住金	中西金属工業	三井住友カード
小林製薬	住友生命保険	羽 車	三井住友銀行
阪野商店	住友倉庫	林 六	

《個人会員》(入会順・敬称略)

深田晴世	藤原啓助	野原清秀	東里香	濱崎寛
福岡隆子	馬場明和	松井基純	関英夫	上田成之助
梅原一哲	阪野和子	松井香代子	曾我見郁夫	奥野哲久
石本三千也	和田暁夫	山本道子	筑瀬重喜	野村正朗
岸田克己	桑名孝子	大磯隆一	苧阪満里子	田中道子
梅村博也	石光正男	大原清司	笠松規子	釜江常好
屋良巳佐治	高杉方宏	大原典子	近藤康博	早山雅子
國友正和	川島啓助	橋本博	松江忠二	久木山より子
稲垣千代子	豊田成子	松山壽一	宇民正	秦幸次
浮田俊太郎	切畑敦詞	松谷郁子	高松孝之	松野雅典
桑山弘	三石武男	山下鉄男	後藤喬雄	田原孝子
三谷郁子	神林恒道	萬野尊昭	島村須美子	山之口玲子
三浦信一郎	杉浦和子	松田富久子	青山由子	内海昭幸
水島敬夫	野村透子	榎原良行	那須市子	山下邦子
渡辺優子	玉手隆雄	小川雄介	国分妙子	小谷公穂
平川美津子	有賀熙郎	能田久美	文野彰藏	森井英雄
安藤邦洋	佐野哲郎	宮北浩司	富田昭子	山本明鑑
阿部孝夫	小田中四郎	奥村英二	土橋康男	圓正
松本幸道	島村とも子	市崎好明	土橋瑞枝	笠井多美子
笹川忠士	松井栄蔵	櫛木謙二郎	笠松義男	枚田順子
緒林桂子	得田榮次郎	森原隆登	米坂享	作美代子
碓井昭彦	菱田紘生	長谷登	太田真知子	木村榮宏
長井重龜	豊田紘子	富田恭弘	栢真紀夫	内海壽美
岸田多門	河津清子	富田賢次	小早川清恵	前田多枝子
能田豊	佐竹悦朗	乾井狩	金岡幸人	村西良彦
祐野尚子	宮崎悦朗	井狩啓子	西野信光	粗山綾子
金定秀光	野口外志子	井田隆宏	久木山信	匿名 1名
金定嘉也子	森本武浩	原村上	中西彰	
日高穂	小山浩	村上小夜子	中西規律委子	

会費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。・法人会員につきましては年会費1口10万円です。
 会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)
 ・ご同伴者は10%割引となります。
 ・関連演奏会のご案内またはご優待を致します。
 ・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。
 ・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。